# 第４回　新県民体育館整備等基本計画検討会　議事録

日　　時：令和７年 12 月 18 日(木)13:30～16:00
場　　所：オーテピア高知図書館４階「ホール」
出　　席：委員 11 名中 11 名が出席　　※原田アドバイザー出席
出席委員：刈谷委員、寛藤委員、坂本委員、高岡委員、玉乃井委員、久川委員、
　　古谷委員、前田委員、丸委員、森委員、渡邊委員
議　　事：（１）新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）

## １　開　会

**＜委員長挨拶＞**

・検討会の意義について、この会議で決定権はないにしても、この場で検討した内容が反映されているのか疑問。知事と市長のトップ同士の判断で決まっていくというのは、まだアンケート調査も終わっていない状況ではすごく拙速である。実際ここの検討会の場で、なかなか我々の意見が反映されないのであれば、この検討会の意義とは何なのかと思う。部長からも最終案という説明があったが、遡るような議論も必要ではないか。また、決定までのプロセスにおいて、10 月 22 日に開催された第３回検討会の議事録が、知事が配置案を市長に提案した 12 月 1 日まで公開されなかった点も大きな問題である。県民に対して早期に情報共有を。

・コストに対する収益においては必ず議論が必要。活字で見ると、あたかもイベント興行に振り切るような見え方になってしまうが、むしろ社会体育施設が今ではコストセンターと見なされてしまうため、いかににぎわいを生み、収益をあげるかということをセットで議論しなければならない。昨年度のあり方検討会においても、人口減少が進む中で少しでも収益をあげるため興行イベントにチャレンジするという意向を聞き意見を出してきた。プールや地下駐車場という案も出ているが莫大なコストがかかることになり、そこに対して本当に正しいのかという意見もこの場で議論していただきたい。

・昨年からずっと申し上げているが、この議論は単なる建替ではなく、まちづくりであること。持続可能な施設をつくるためにもいかに収益をあげていくかということに知恵を絞っていく必要があり、そこに時間をかけることこそが責任のある議論である。第２回でアスパルこうちのグラウンドの話が出てから、本当に議論すべきことが議論できていない。様々な分野の委員の皆さまには幅広い視点での意見をお願いする。

２　議　事

**【（１）新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）　前半】**

＜森委員＞

・建設費に対して、プールの建設費は入っているか。

⇒県）計上している。

＜寛藤委員＞

・武道館については、１階ピロティ、２階武道場で進めていくという認識で良いか。

⇒県）この形で進めていきたい。

・現在の武道館は、１階に練習場、３階に試合場である。３面あれば通常の試合は開催可能であるが、四国大会や全国大会になると４面使うことがある。剣道や他の武道においても同様。となると今回の３面の案では使い勝手が悪いと同時に、日常使いを検討している個人は日常的に使えない。そうなると、現在の武道館の使われ方とは逆行してしまうのでは。

⇒県）全国大会となると、武道館とメインアリーナやサブアリーナの同時利用を想定している。県内の大会においても面数に不足がある場合は、サブアリーナの同時利用を予定し備品においても準備する予定。日常使いにおいては旧南中高の体育館を開館準備予定であり、そこには１階にレスリング場や武道スペースが計６面分あるため、結果としては、今の武道館よりも面数は増える想定。

・現在も利用調整会議で武道だけにおいても予約が困難な状況。これにサブアリーナの球技団体との調整も出てくるとなると、予約困難となることを懸念する。

＜刈谷委員＞

・県と市のトップが協議し、土地の外枠が決まったと思うが、この土地において配置も含めて委員同士で検討していければ。ただ、今の配置では大会運営は難しい。目指す姿や基本理念として、まちづくりとあるようにこの場所が地域のコミュニティになるような議論をするべき。メインアリーナを使用していないときもにぎわいを生むような導線確保が必要であり、プールは北側に敷地を少し離して建設し、サブアリーナとの間に駐車場を設けると、個人的に利便性は増すと思う。また、プールが２階からになっているが、高齢者が利用するということも検討いただきたい。

⇒県）今後は設計の段階で諸室等が入った図面も作成されるため、そのときにはまちづくりに繋がるような議論をお願いする。

・委員長が冒頭で述べたように設計の図面ができてから議論するのではなく、ここでの意見を設計に活かしてほしい。時間はあまりないのでスピード感を持って進めていただきたい。
・利用者の使い勝手を考えたときに一番重要なのは導線。プールは管理も含めて別の扱いが良いのではないか。

＜森委員＞
・今ある武道館、ぢばさんセンターは今後どうなるのか。
⇒県）武道館については検討中。今後正式に集約となれば、国の財源を使い、新たな武道館が建設後、何年か後に除却や転用しないといけないという条件が出てくるので、それまでにしっかりと活用を所管する部署と進める。また、ぢばさんセンターについては、所管の産業振興センターと連携しながら発表できる場があれば、同じような形で進んでいく。
なお、武道館がある城西公園は都市公園内であり底地は県の土地。県の公園上下水道課の所管であり、そこを高知市が管理しているという状態。都市公園の中での使い方において関係団体と協議していきたい。

＜古谷委員＞
・プールのことでお伺いしたい。既存の体育館にはプールがあり、利用者も非常に多い。一方で、近くには市営プールもあり、そちらも利用率は高い。また一方で、小中学校のプールの経年劣化が問題視されている中で、今後プールが集約化されることについて、事務局の方針を伺う。
⇒県）小中のプールについては高知市教育委員会が所管。現在市内のプールは老朽化が進んでおり、建替なのか改修なのかという議論がされている。プールのあり方を考えると、まずは小学校はプールの授業をしっかり行うとのことで建替や改修という方針が出されたと認識している。中学校については、改修せずに民間で授業をしようという方針が出されたと思う。財政的な負担が大きいので、今回新しいプールをつくることで、近隣の学校が授業で利用することができ水道代や改修費の節約になる。それらは今後高知市と協議していく。

＜久川委員＞
・収支について、初期と充実期で同じ人件費や維持管理費ではよくないのでは。例えば、時期に応じてスライドしないと 1 年目と 10 年目で同じ金額で計算をしていくと破綻してしまうと思う。そこを見据えた金額が少なくとも 5 年間の単位で考慮されてないと指定管理料を下げるためのものに見えてしまう。

⇒県）物価指数に合わせて精査し今後計算していく。
＜渡邊委員＞
・プールの新設でインクルーシブな機能が導入されハードはクリアされるかもしれないが、身体に障害のある方の場合、一般の方と同じスペースで水着一枚になるにも抵抗がある。知的・発達障害の方においても疑問点はあり、管理も含めてソフトの部分もインクルーシブなプールが可能なのか懸念される。障害者スポーツセンターは障害のある方が一般のプールも利用できるようなサポートをしている。管理も含めた検討をお願いする。
⇒県）管理運営を議論していく中でしっかり検討していきたい。

＜坂本委員＞
・資料３の防災では、津波のみではなく洪水や浸水にも注意するべき。
・地下駐車場については，今年の秋口に他県で発生した豪雨による浸水なども教訓とすべき。
・まちづくりの観点で一般的には 15 分都市圏内であれば施設間を歩いて行けるというデータもある。はりまや橋からを想定したときに現地までの沿道もにぎわいがあり楽しくなるようなまちづくりの検討が必要。
⇒県）アリーナを核としたまちづくりを考えていかなければならないと思っている。この施設を使って、地域住民の方々にも参画いただきワークショップなど今後実施したい。そこでは、15 分圏内にどういう施設があって、どういう施設が必要かなどについて意見を出し合う場を設けることに取り組んでいきたい。

・高知県は自転車の交通手段分担率が全国的に見ても高い。高知県は中核都市に集約されており、この都市の規模では人口密度は高いのでそれを強みとして進めていけたらいい。

＜原田アドバイザー＞
・建設費の中にプールの建設費が含まれていると説明があったが、どのくらいの金額か。
⇒県）プールの延床面積を含めた整備費用であり、単価に延床面積をかけて計算している。プール自体は約 1000 ㎡を想定している。（※プールの建設費：約 10 億円相当）

・アリーナに限った建設費はいくらか。
⇒県）メインアリーナで約 1 万㎡、面積では全体の 6 割程度。
（※アリーナの建設費：約 94 億円相当）

・一般的に5000人規模のアリーナの場合、100～200億ぐらいが相場であり、アリーナ単体の機能を充足していく上では、100億の想定は厳しい金額。
・当初の検討会ではプールのことはあまり出ず、アリーナの機能の話がほとんど。今もプールに関する議論はあまりされていない。授業で使うとか利用制限をかけるとかいろいろあるが、部活で使うとなると一般の人は使えなくなるので、誰がメインで使うかという議論など全くできていない。そこにユニバーサルデザインが入ってくるとなるとプールの議論がなおざりになっている。指定管理料は3000万円程度で収まるという説明もあったが、個人的には収まらない気がしている。かなり狭い敷地に様々な機能を取り込みすぎると、将来的に機能障害が出ないのか心配。
・以前に、ぢばさんセンターを活用しようという意見もあったが、例えばそこに広々としたアリーナを設置し、現有地はプールを中心に教育施設として運営していくような議論は今後可能性はあるか。
⇒県）ぢばさんセンターがある敷地は、都市計画の用途地域としては工業専用地域。プールを建てることは難しい。また、工業や商工団体が集積しているため、アリーナをつくることへの理解が周辺地域の方々も含めて同意を得ることは難しい可能性が高い。

・都市計画の用途地域を変更すれば可能であると思うが、カフェを併設したり、何か新しいまちづくりが進展するようなことを考えると、可能性としては残してもいいと思う。
・経験上、プールと一緒にアリーナを計画したところはなく、基本はアリーナ単体。なので、将来的に指定管理を入れるにしても、２つの事業者でプールとアリーナで管理を分けるのか一体的に指定管理でやるのか、そうすると、応募事業者がいるのかという現実的な問題が出てくるが、考えはいかがか。
⇒県）現有地で施設を再整備していくということで昨年度あり方検討会の中でも議論をし、中心部から徒歩で20分圏内であり公共交通もある。集客面からも利用者からも現有地が望ましいということで議論を進めてきた。まちづくりの検討を進めていく上でも、中心部により近い現有地が望ましいとして県は判断している。プールについての管理費は一般利用者が8割であり、今後障害者や学生も使えるプールを設置していこうと考えている。収益については、なかなか収益があがる施設ではないと考えており、行政サービスとして、県が指定管理代行料を計上し管理していくことになると考え、切り分けていくことが良いのか、それとも一体的に管理することがいいのか、検討を深めていきたい。

＜前田委員長＞
・補足をすると、昨年のあり方検討会の時に、この現有地でプールはできれば建設しないという議論もあり、武道館もそのときの話には出ていなかった。今回これらの施設が

現有地の計画に入ってくるとなると状況が違うため、今のぢばさんセンターの案も含めて全て並べて検討していくということも選択肢としてはある。去年の議論としては、そうした状況（プールや武道館はなし）であれば現有地が望ましいという議論で終了していたというところだけは補足させていただく。

＜丸委員＞
・現有地の立地条件の良さは納得いく一方で、今議論が約半年近く滞ってる理由は、敷地の狭さと、アスパルこうちグラウンドのオーナーが誰かというこの２点に尽きる。課題として、駐車場、交通渋滞、解体に伴う施設の休止期間中の代替体育館の整備コスト、それらを検討する上で、県の決断のスピードが早すぎる。また、不登校支援の充実を求める会からも意見を頂いているが、アスパルこうちの不登校の支援をされている方々が懸念している問題。そしてグラウンド問題、プール問題。これらは、ぢばさんセンター案ならば、全て解消することができる。去年までの立地そのものの議論と、ぢばさんセンター案を天秤にかけてみるということは、非常に有益な代替案の検討として必要ではないか。
⇒県）立地については現有地ということで、まずは基本計画の骨子案をまとめ、示していかなければならない。一方、ぢばさんセンターは、大ホールについて改修をしていくのか、それとも改修はせずに新県民体育館と機能を集約していくのかという議論がされている。
我々としては、ぢばさんセンターのイベントを新しいアリーナでも開催できるような計画を立てていく。

・解体して、現有地に新しく建てるという休止期間をなくすことによって、必要な議論をする時間が確保できると思う。設計ありきで空いたスペースでまちづくりを考えるということは、順番が全く逆の話。十分検討する価値があると思うので、ぜひお願いしたい。

**【（１）新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）　後半】**
**（補足）**
県）ぢばさんセンターを候補地にという意見を受け、昨年度の議論から県が現有地で建替と判断し高知市とも土地を借りる方向で示している。高知市議会や県議会においても現有地で検討を深めていくと説明しているので理解頂きたい。候補地については意見としていただき、別トラックの議論で情報収集し整理する。

・事務局説明

＜森委員＞
・ぢばさんセンターや武道館を集約すれば国の財源が利用できると説明があったが、情報が不足している。ぢばさんセンターについては、我々側の知見に圧倒的に不足がある。ぢばさんセンターの検討会の情報や財源の情報の共有を。
・すでにアリーナ検討が公表されている以上、プロバスケチームの話なども出てきており、県民の期待値が上がっている。ここで検討スピードを落とさず前に進めていかないといけない。武道館、ぢばさんセンターもそうであるが、南高校跡地も含め、候補地選定時の検討結果も共有してもらいたい。そのうえで、今の配置案をＡプランとし、もしぢばさんセンターのあり方検討会などの動向で、だめな場合もあるかもしれないので、スピードを緩めないようにＢプランを用意し、Ａが厳しいとなった場合にＢというような進め方でもいいのでは。
⇒県）ぢばさんセンターのあり方についても情報交換をしながら、お互い良い方向になるような形で進めたい思う。

＜玉乃井委員＞
・県民体育館はいつまで利用できるのか。
・地下駐車場が急に出てきて注目されている印象。地下駐車場はどのあたりになるのか気になるところ。津波、導線、耐震、地元住民に対する配慮等を懸念する。
・ぢばさんセンターの候補地についてエンタメ側からすると、イベントスタッフだけでも 250 人から 300 人であり、県外から来る人をぢばさんセンターに運ぶことは難しい。やはり高知駅、市内のホテルから公共交通や徒歩でアクセス可能な現有地がありがたい。
⇒県）解体については、夏の空調の関係もあり、県内の学生大会を考慮し、大会の時期が終わり次第、解体をしていく。地下駐車場については、現状の 82 台では厳しく検討した結果、平面部分では 100 台程度しか確保できず、地下駐車場を入れた案で報告した。地下駐車場の場所については、いずれにせよ技術的には問題ないと伺っている。

＜高岡委員＞
（市議会の意見を紹介）
・教育施設の利用者に対する配慮の継続をお願いする。
・今後の検討過程においては、市民県民の意見をより反映した計画を希望する。

＜古谷委員＞
・現有地で県民体育館を解体し、建設となるとその間の代替案はあるか。
⇒県）県民体育館の休止期間中の代替案として旧南中高の体育館の整備を進めている。そこは日常使いであり、大会はできない仕様。一つ心配することは、空調がある体育館

は県民体育館を含めて県内で限られており、野市の青少年センターの体育館の空調整備を計画している。
＜刈谷委員＞
・非常に狭い敷地で複数の施設が入る事例が全国になければ、高知初として基本理念に沿って、今の案の中で何ができるのかという議論をしていけたら。例として、春野総合運動公園は、全国的に見たら狭いが、見る側にとっては非常にコンパクトでありがたいという声を聞く。

＜原田アドバイザー＞
・日本全国の指定管理方式は民間活力の導入ではなく一定の費用がかかる。ＰＦＩやコンセッションに向けて検討したときに、現有地に機能をすべて盛り込むと、民間事業者は手を挙げにくい。例えば、プールや武道館のように収益性が少ない施設は指定管理で、残りはＰＦＩという方法が可能かどうか。
・ぢばさんセンターの機能を集約したときに「スポーツ×ものづくり」という色を出していくのは新しいと思う。そういうコンセプトのアリーナは全国にない。特に高知の文化や観光を展示したり、今のコンセプトにものづくり関連のショップができたり、ホスピタリティの施設ができたら内装をものづくりで統一してみると、高知らしさ、高知でしかないようなアリーナづくりにぢばさんセンターのレガシーを活用していくと、非常にユニークな場所になり、民間事業者も手を挙げやすいと思う。
⇒ＪＶ）ＰＦＩと指定管理を分けることは難しいと考える。ＰＦＩも事業者指定管理者であり２人の指定管理者が出てくると維持管理において効率が悪くなる。民間事業者からすると、しっかり指定管理料を頂ければ運営はできるということであり、そこはＰＦＩの中で業務を分け、アリーナ事業ではしっかり稼ぐ工夫をし、プールや武道館は、県からサービス対価で指定管理をいただくということであれば、民間のハードル自体は解消できる。

・どういったアリーナにするか、稼ぐエンジンとなるものがつくれるスペースがあるのか、それが外向きなのか内向きなのか、設計段階で工夫を凝らせば可能性は見えてくる。
⇒ＪＶ）民間からは、例えば体育機能と相性のいいスパ施設や近年酷暑であるため、子どもの施設をコンコースやエントランスにボルダリングをつけるだけでも家族が訪れるようになるアイデアをいただいている状況。そういうスペースをいかに確保し、にぎわいの創出や稼ぐという視点が重要。

・現在は、子どもが遊べる施設においても有料である時代。

＜前田委員長＞
・ぢばさんセンターを候補地に加えてはどうかという意見に関して、検討会に寄せられた意見や、アスパルこうちのグラウンド利用の意見もかなり解消される案だったと思う。コストの部分で、現有地にプールを残し解体をせず、地下駐車場もつくらないとなれば、試算した整備費用から数十億円削減でき、検討のテーブルとして上がってくる。部長は別のトラックで検討という話があったが、一緒に検討をしていくことこそが、まちづくりであり、まち全体を考えていくということ。商工関係や教育関係、そういった議論を全てテーブルに置いた上で、最終的に 20 年、30 年後どの案が望ましいのか議論していくことが大事。基本的な考え方に示されているスポーツ、経済、観光という考え方はすばらしいが、中身をどこまで想定していくかに汗をかけられるかが、責任を持った議論ではないか。次回はぢばさんセンターに関しても比較ができるような形で示していただきたい。
⇒県）委員長からも冒頭に検討会の意義などの意見があった。県民体育館は県の施設であり、ここは県がしっかりと責任を持って議論を進めていく。委員の皆さまにおいては、案について専門的な立場で意見をいただければと考えている。その中で、議論が足りない部分も多々あると思うが、議論を進めていけるよう努める。また議事録においても公開が遅れたことについて申し訳ないと思う。今後早期の公開に取り組む。それから、行政同士の協議と検討会との連携という指摘について、現有地で建替の議論を深めていく中で、土地の利用面積やアスパルこうちという教育施設があり、底地の所有者である高知市とアスパルこうちを所管している高知市教育委員会と協議を進めてきたが、これは行政と行政の協議であり、委員の皆さまにおいては情報を逐一報告できなかったことについては、ご理解をいただきたい。今後、委員の皆さまとコミュニケーションが密にとれるような体制を考えていきたいので、引き続き、案を固めていく上で様々な意見をいただければと思う。次回は、今回いただいた意見をどういう風に反映したかなども丁寧に説明をさせてもらいたい。

３　閉会